

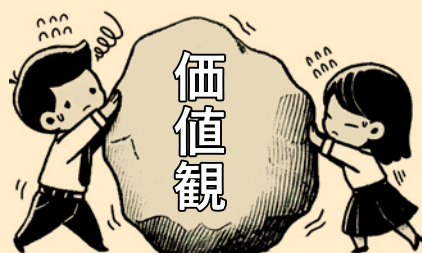
WITH

男女共同参画社会を考える情報誌ウィズ・ユー／2024年 秋号 No.53

YOU

特集

ざんねんな ワーク・ライフ・ バランス



今こそ知りたい
正しい「ワーク・ライフ・バランス」のすすめ

八戸市 男女共同参画
シンボルマーク

特集

ざんねんな ワーク・ライフ・ バランス

内閣府が「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」を掲げて17年。
世間には理想と現実にギャップがある「ざんねんなワーク・ライフ・バランス」が存在しだしているとか。
「あなたの職場でも?」、「わたしの家庭でも?」、「こんな身近なところに?」・・・
まずは、「ざんねんなワーク・ライフ・バランス」の生態を探ることから始めてみましょう。

1

カチカチ価値観人



プライベートな時間と仕事の時間。何を大切にしたいか。世代の違いによっても価値観の差は大きくあります。そんな価値観の押し付け合いを見かけることもちらほら。

2

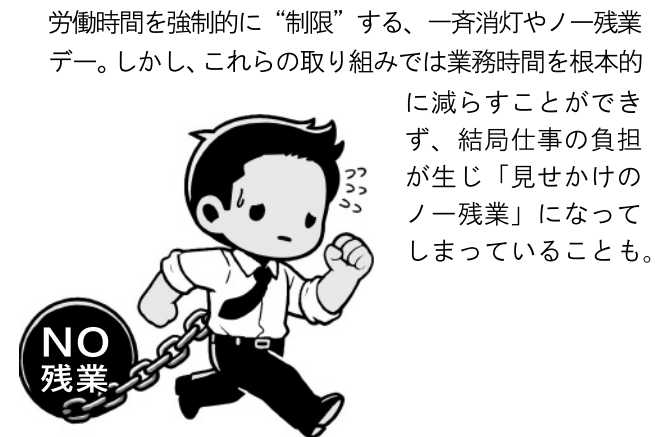
社風おくり人



あなたの会社の「社風」はいい風ですか？悪い風ですか？現状維持を望む声や、社内改革を進めたいという声など「社風」も企業で様々。経営陣やベテランの強すぎる風に吹き飛ばされそうになっていませんか。

3

NOノー残業人



労働時間を強制的に“制限”する、一斉消灯やノー残業デー。しかし、これらの取り組みでは業務時間を根本的に減らすことができず、結局仕事の負担が生じ「見せかけのノー残業」になってしまっていることも。

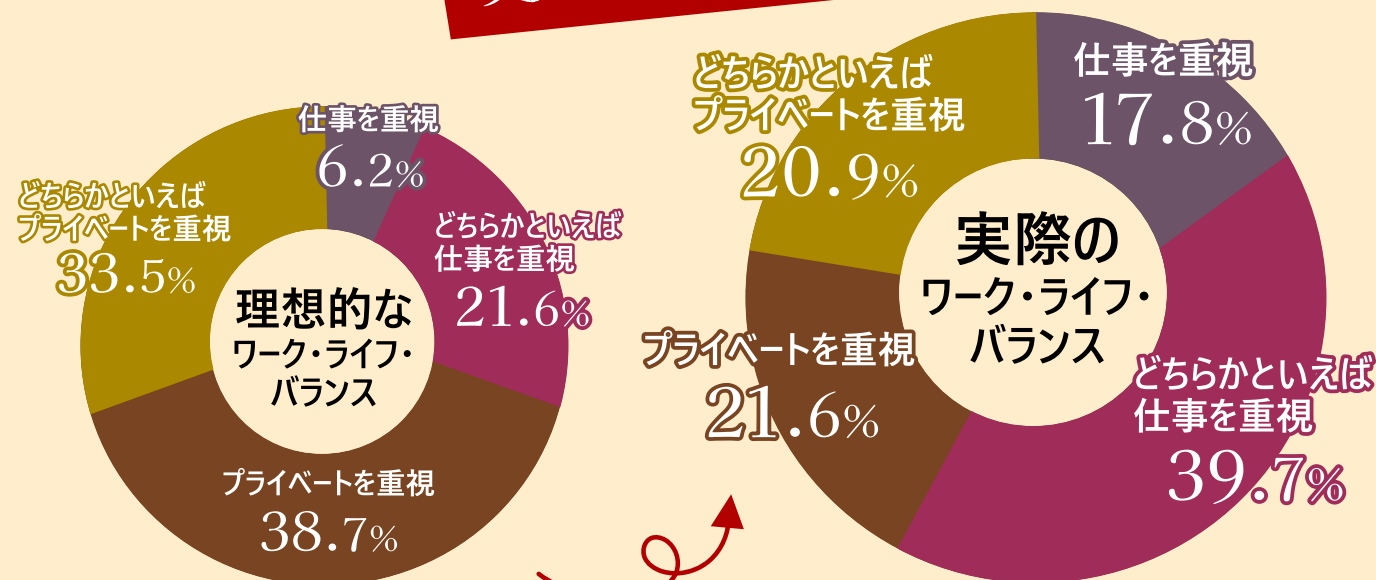
4

ゆらゆらバランス人



仕事を充実させればプライベートが犠牲になり、プライベートを充実させれば仕事に犠牲になる。時間配分のバランスを取ることにとらわれすぎて、本来の自分らしい充実した暮らし方を見失っている人も。

理想的なワーク・ライフ・バランスと 実際のワーク・ライフ・バランス



Job総研調べ「2023年 ワークライフ実態調査」

この人に聞きました

株式会社平井彩子事務所
代表取締役
中小企業診断士
平井 彩子さん



組織開発コンサルタントとして、組織と個人の成長を支援。生産性向上、ダイバーシティ推進などの支援も多く、小手先の改善ではなく、従業員と経営者の意識改革をもって、企業が自走できる仕組みづくりから組織支援を実施。

あるべき姿も変化すべきところを、「時間配分のバランスをとる」ということにこだわりすぎて、むしろ充実感や安定感を失ってしまうことも。
このように、古い社風や凝り固まった価値観によって、柔軟な働き方が実現できず、本来目指していた「ワーク・ライフ・バランス」とは大きなギャップが生まれてしまうのです。
今回の特集では、この理想と現実のギャップの裏側に生息する4つの「ざんねんなワーク・ライフ・バランス」を紹介しました。これらの「ざんねんなワーク・ライフ・バランス」の生態を知ること、みなさんの身の回りに生息するギャップに気づき、現代のあるべき「ワーク・ライフ・バランス」に向き合うきっかけになればと願っています。

社会全体が「ワーク・ライフ・バランス」について認識しつつも、理想を目指した企業の取り組みと、従業員一人ひとりの実情には残念ながらギャップが生まれています。このギャップの一つが、見せかけだけの「ノー残業デー」。残業なしを掲げて従業員の労働時間を強制的に制限しながらも、実際には会社以外で残業しているというようなこともしばしば見られます。
また、子育てや介護などライフステージや生活環境が変化することで、本来働き方の

「ワーク・ライフ・バランス」について、みなさんはどのようなイメージを持っているでしょうか。「プライベートの充実」「多様な働き方の選択」「経済的な自立」「子育て・介護とのバランス」「やりがいと充実感のある生活」など人によってイメージは様々でしょう。
2007年に内閣府が「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」として、国民一人ひとりが充実感ややりがいを感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じた多様な生き方が選択・実現できる社会を目指すことを定めました。

そして16年後の『2023年ワークライフ実態調査』によれば、7割を超える人が理想として「プライベートを重視」すると回答しました。しかし、実際のワーク・ライフ・バランスでは、「プライベートを重視」と回答した人は4割にとどまり、「ワーク・ライフ・バランス」の理想と現実には大きなギャップがあることがわかったのです。

なぜ「ざんねんな」になったの？

「ざんねんな」になったの？

株式会社 橋文

シューフィッター資格保有
アドバイザー数東北ナンバーワン

1871年（明治4年）創業。「あなたの足元を楽しくする」の事業理念のもと、小売部・卸部・スポーツ部の3部門で靴・ウェア等の販売、学校指定用品の取り扱いのほか、令和2年からは衛生除菌用品も手掛ける。地域の皆様に愛される会社を目指し、積極的な営業を展開しております。



25年の経験が紡ぐ職場と家庭のバランス

HASHIBUN9 QUE ラピア店店長代行

坂本 明子さん

長年の経験が支える HASHIBUN9 QUE ラピア店の現場

坂本明子さんは、株式会社橋文に入社以来25年以上にわたり店舗にて活躍し、現在はHASHIBUN9 QUE ラピア店の店長代行を務めています。彼女は長いキャリアの中で、店舗運営の重要な部分を担い、特に売り場の配置やスタッフの指導に力を注いでいます。橋文では女性スタッフが多数活躍しており、そのコミュニケーションやシフト管理には個人個人に合わせた配慮が求められます。坂本さんは、職場の人間関係に敏感になりつつ、スタッフが最大限の力を発揮できる環境を作り上げてきました。

女性が輝ける 職場づくりを目指して

HASHIBUN9 QUE ラピア店では、女性が活躍できる環境を整えるための取り組みが続けられています。坂本さんは、自身がシューフィッターの資格を取得したことで、さらにスキルアップを図り、業務に対する意識も高まったと語ります。また、女性スタッフが育児や家庭と両立しやすいようにシフトを工夫し、連休を作るなどの配慮を欠かしません。彼女は、橋文で働く女性たちが自分らしく、そしてやりがいを感じられる職場を目指して日々奮闘しています。

家庭と仕事の両立— 夫婦の関係を大切に

坂本さんは、家庭と仕事を両立するためのコツは週末にあると話します。お互いの趣味を尊重し合い、寄り添うことこそが、家庭を円滑に回す工夫だとか。週末には夫と一緒に産直巡りやドライブを

八戸市からのお知らせ

- ☆ 男女共同参画社会を考える情報誌「WITH YOU」

年2回発行（10月・3月）

バックナンバーは市ホームページで閲覧できます！



- ☆ 市の取り組み

市では男女共同参画社会の実現に向けて様々な取り組みをしています。

- ・著名な講師から男女共同参画について学ぶ講演会
- ・女性のスキルアップを目的とした連続講座
- ・各種イベント等でのパネル展示やパネルアンケート
- ・多様な性のあり方について学ぶ研修会 ほか



「DVかな？」と思ったら、 一人で悩まず相談を！



一般的に、配偶者やパートナーなどの親密な関係にある（あった）者から振るわれる暴力のことを、DV（ドメスティック・バイオレンス）といいます。暴力の種類には、身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力、その他の暴力があります。どんな相談もお気軽にご連絡ください。

八戸市配偶者暴力相談支援センター メール相談も受付ています

なやみすくう

TEL：0178-38-7339 ※9時～17時（土日祝日を除く）

DVホットライン（青森県女性相談支援センター）

はなして みればいい

TEL：0120-87-3081 ※24時間受付、緊急通報専用

はればば

DV相談ナビ

TEL：#8008

プラス
DV相談+

TEL：0120-279-889

※24時間受付
メール、チャット ※10か国語に対応

